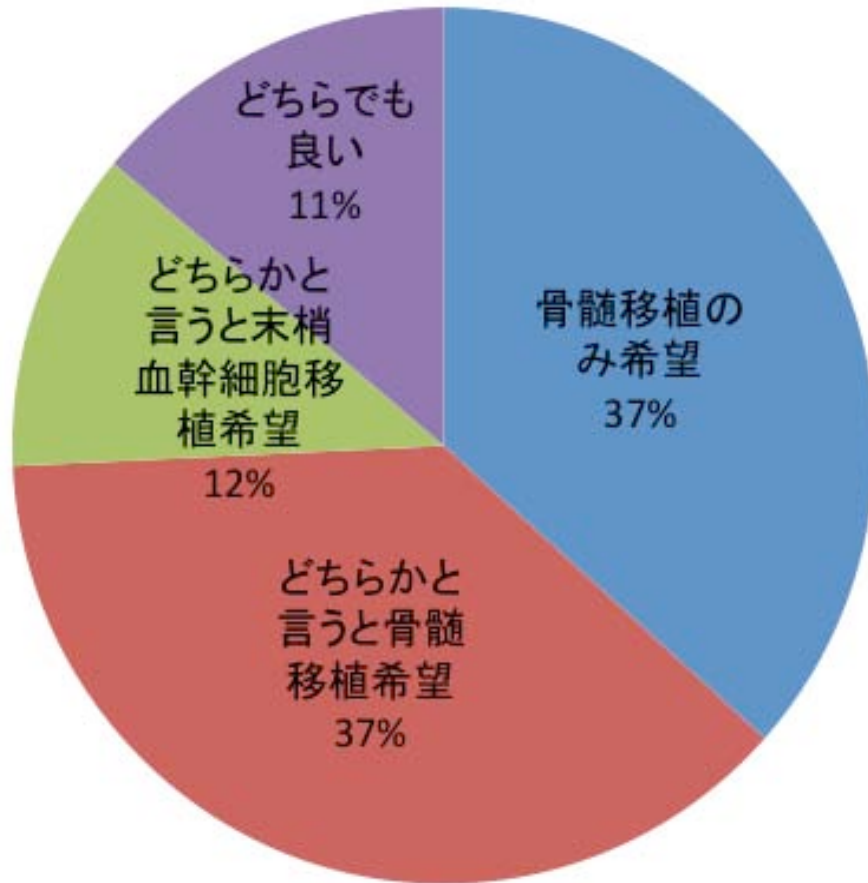


非血縁者間末梢血幹細胞移植の体制について

患者・主治医側とドナー側の希望

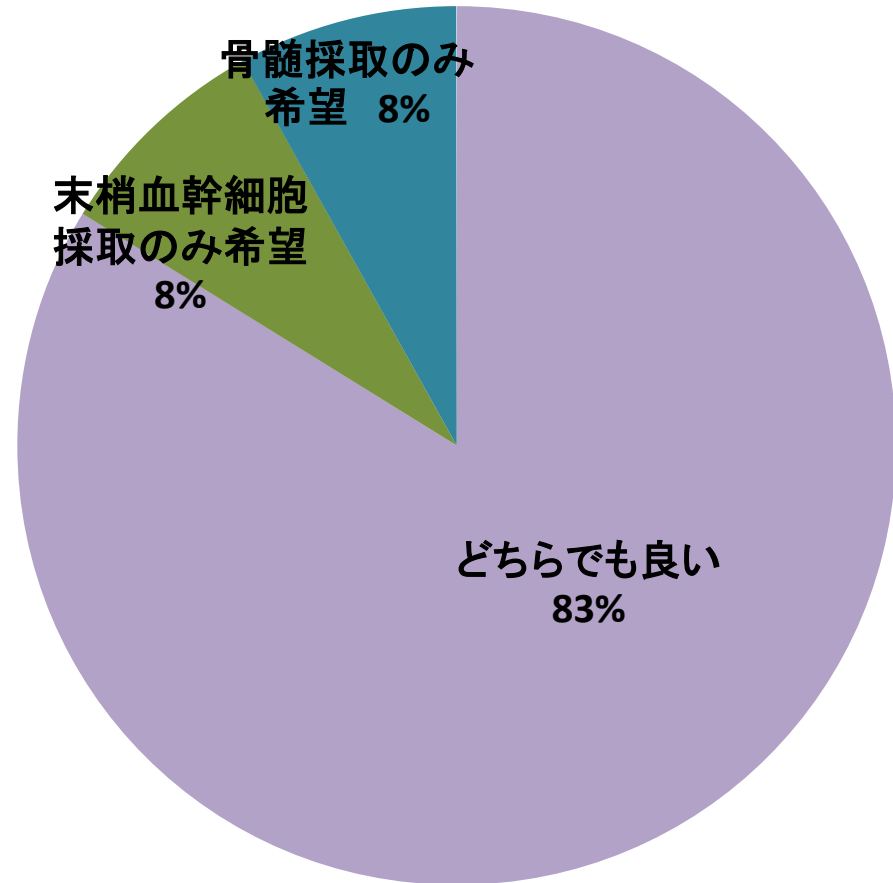
とくにドナー側の多くは、骨髄・末梢血幹細胞どちらでも良いと考えている。

患者・主治医側の希望



対象：非血縁者間末梢血幹細胞移植認定施設で移植予定の549名

ドナー側の希望

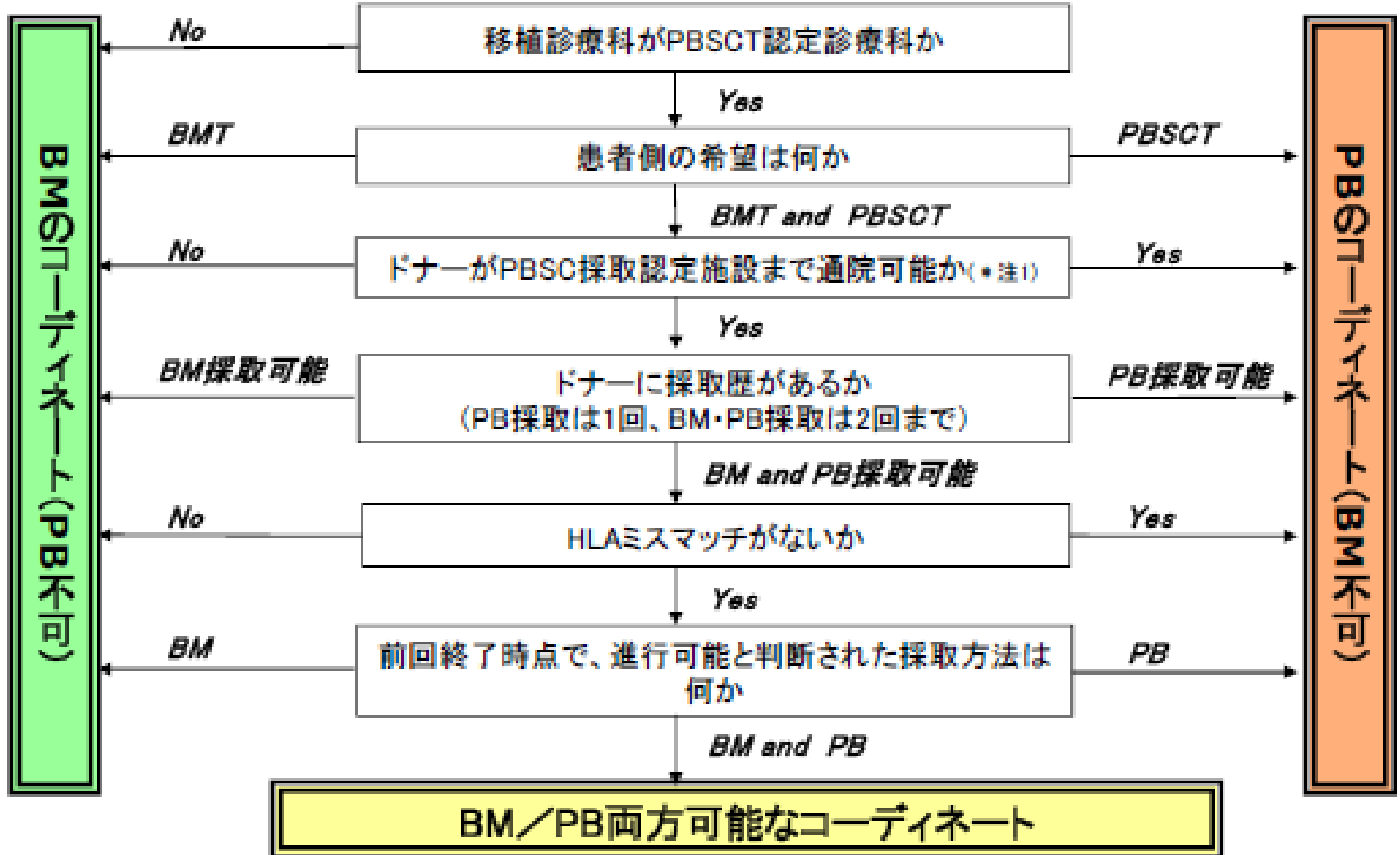


対象：末梢血幹細胞採取を含むコーディネイト対象者のうち「どちらか承諾しない採取方法はあるか」を確認したドナー308名

ドナー要件

～コーディネートにあたり、可能な採取方法が絞られる条件～

末梢血幹細胞ドナーには骨髄ドナーにはない制限がある。

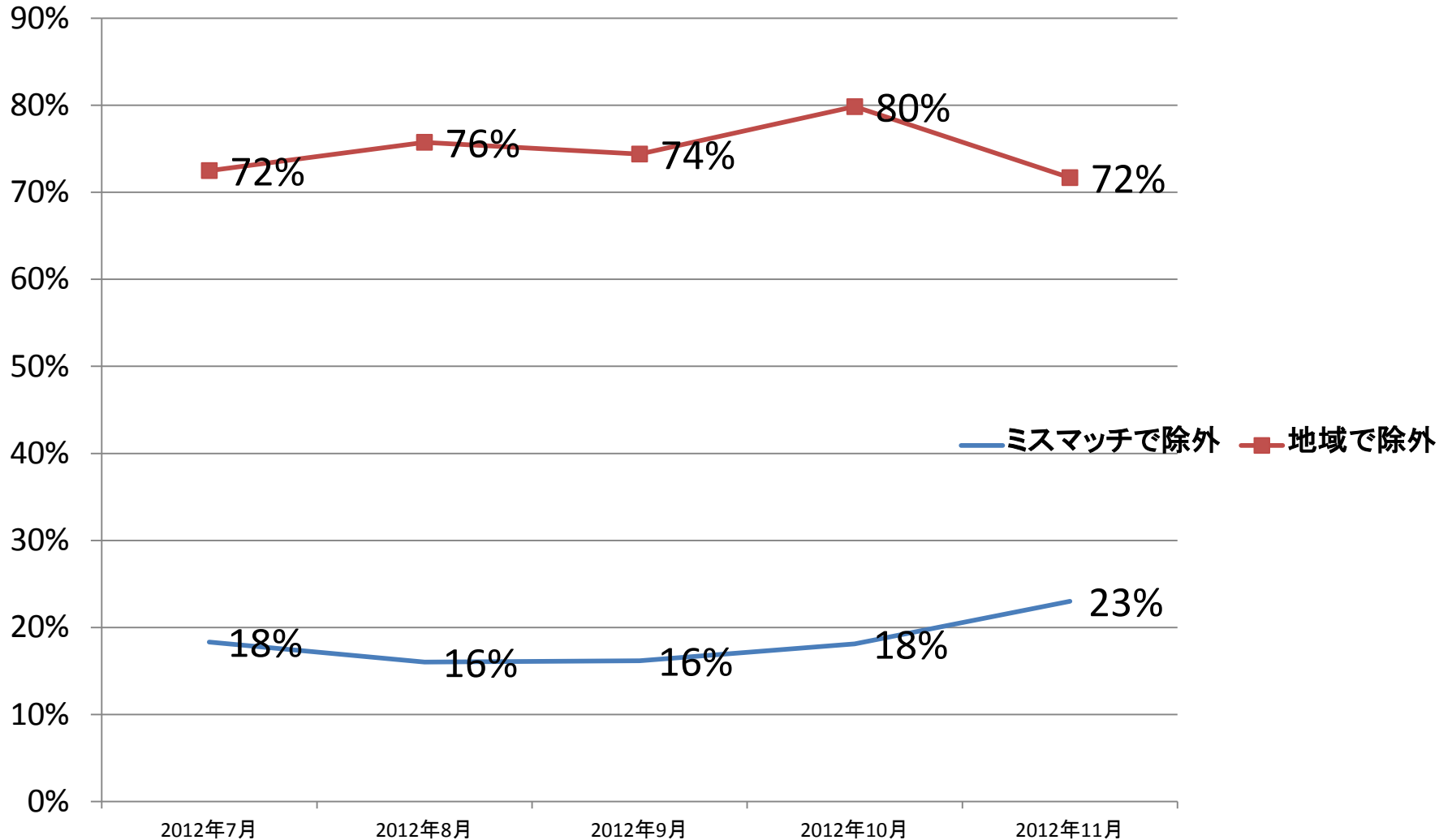


(注1) G-CSF投与ならびにPB採取後の健康管理の観点から、当面は「通院可能」の条件が設けられている。

* BMT; 骨髄移植, PBSCT; 末梢血幹細胞移植, BM; 骨髄, PB; 末梢血

末梢血幹細胞ドナーコーディネートから除外された条件の内訳

末梢血幹細胞ドナーのコーディネートは地域による制限で除外となっている。



※ドナーによっては複数の条件により除外されています(重複している)。

※2012年12月に一部対象地域を拡大したため、地域で除外されるドナー数の減少が期待されます。

非血縁者間末梢血幹細胞採取の課題

○ ドナーの居住地による制限

短時間(1時間)で施設に通える範囲に限定されている

○ 採取施設が少ない

非血縁者間骨髄採取施設が177施設あるのに対し、
非血縁者間末梢血幹細胞採取施設は41施設 (2012年12月17現在)

○ 緊急時の対応体制

非血縁者間末梢血幹細胞採取施設で対応ができるように、居住地による制限が設けられている

○ 非血縁者間骨髄移植との治療成績の違い

日本人において非血縁者間では骨髄移植と末梢血幹細胞移植の成績に違いがある可能性が指摘されている

非血縁者間末梢血幹細胞移植普及のために

- 非血縁者間骨髄採取を行っている多くの病院で、血縁間では末梢血幹細胞採取を行っており、緊急時の対応は可能であることから、ドナーの居住地による制限は緩和できるのではないか。
- 非血縁者間骨髄採取施設に比べて、非血縁者間末梢血採取施設は少ないことから、引き続き採取施設を増やすことが必要ではないか。